



ホザキノミミカキグサ

1、2022 年度モニタリング報告ー4

葦毛湿原は9月初めにシラタマホシクサが咲き始め、現在はイワショウブ、サワシロギク、サワギキョウ、ミゾソバ、ムカゴニンジン、ワレモコウ、ノダケ等の秋の花が満開になっています。昨年度に設定した実験区にも変化が見られます。

1) P地点

P地点は2018年度に木の伐採と抜根、2019年度に仮置きし積み上げた木の根を移動させたところで、作業後1・2年目の状況を葦毛通信No. 96で報告しました。

その後、多くの植物が出現し変化が続いています。右上写真はP地点の上流から下流を見たところで、作業後3年目の状況です。中央と右奥にシラタマホシクサの群落が出現しました。手前や右側には礫が目立っています。

右下写真は、作業後4年目で同じようにシラタマホシクサの群落になっていますが、発芽する植物が増えて手前は地表面の礫が見えなくなっています。特に増えたのはイヌノハナヒゲで、ミズギボウシやサワヒヨドリも増え、2株ですがコオニユリも出現しました。右下の部分は



P地点北東側・作業後3年目（2021年9月19日）



P地点北東側・作業後4年目（2022年10月8日）

イノシシによりかく乱されたところです。

下写真はP地点北西側から東を見たところで、P地点の中央部を下流から上流部に向かって広く見た写真になります。2枚の写真を繋げてパノラマ写真にしています。

作業後3年目では多くがまだ地表面に礫が目立つ裸地状態になっています。手前左側から右上奥に向かって並んでいる木はヤマハギで、地表面に点々と丸くあるのはアリノトウグサの小群落です。



P地点中央部・作業後3年目（2021年6月15日）



P地点北側・作業後4年目（2022年10月8日）

作業後4年目の今年はヤマハギがさらに成長し、地表面には多くの植物が発芽しています。画面奥左側は水分が多くイヌノハナヒゲの大きな群落になっています。3年目の写真は6月のもので4年目のものは10月の撮影ですが、かなり多くの植物が出現し、地表面の礫が見えなくなっていることがわかります。

出現した植物は、木本ではヤマハギ以外に、ノリウツギ、クロミノニシゴリ、イソノキ等があります。草本では画面奥はイヌノハナヒゲの大きな群落になり、一部にはシラタマホシクサの群落になって、その中にサワヒヨドリ、ミズギボウシ等の湿生植物が出現しました。

P地点中央部分はやや高くなっており周辺と比較して乾燥しているところですが、点々とヌマガヤが出現しているところから、地表面に水は見られませんが、地下水位はかなり高いと考えられます。

湿生植物以外には、メリケンカルカヤ、ダンドボロギク、ベニバナボロギク等の外来種が出現し、月1回ボランティアの方々と駆除作業を行っています。

P 地点北側は抜根し積み上げた木の根を仮置きしていたところで、下上写真は積み上げた根の山を除去した直後の状況です。下上右写真の中央部は植生回復作業で除去したミズゴケで水路を埋めて水の流れをせき止め、周囲に水が広がるようにしたところです。この時の作業は葦毛通信 No. 92 で報告しました。まだ植物の発芽は見られませんが、すぐに多



P 地点北側・根の山除去後 1 年目（2020 年 4 月 2 日）



P 地点北側・根の山除去後 3 年目（2022 年 10 月 8 日）

くの植物が出現し、積み上げた根の山の除去から 3 年後（上写真）にはミズゴケで埋めたところを中心にシラタマホシクサが大きな群落をつくっています。水路の水が周囲に広がるようにしたところは、湿生植物が多く出現しています。

右写真はミズゴケで埋めたところの上流部の状況です。画面左の木の下がミズゴケを埋めて水をせき止めたところです。その上流部分にはシラタマホシクサが広がっています。根の除去後 1 年目の状況ですが、植物はまばらで地表面の礫が目立つ状態です。

次頁右上写真は根の山の除去後 3 年目の状況です。画面手前に多くの植物が出現し、地



P 地点北側・根の山除去後 1 年目（2020 年 9 月 15 日）

表面の礫は見えなくなっています。イヌノハナヒゲが多く出現していますが、ヌマガヤ、ミズギボウシ等の湿生植物も多く発芽しています。

右中・下写真はP地点の南側でイヌノハナヒゲの大きな群落になっています。抜根作業後3年目（右中写真）では右側の裸地にヌマガヤが点々と発芽しています。

4年目（右下写真）ではイヌノハナヒゲ群落が大きくなり地表面の礫が見えなくなっています。この部分は、地表面の乾燥を防ぐために刈り取ったイヌノハナヒゲを地表面に残したところですが、予想どおり左側からハルリンドウが分布を広げつつあります。

P地点は地表面全体を水が覆っているO地点のすぐ上流にあたり、木道を境に環境が大きく異なっています。O地点はミミカキグサが出現した地表面に常に水がある湿った環境で、P地点はやや乾燥したところです。出現した植物の種類はかなり異なり、植物の出現時期も乾燥したP地点の方がやや遅くなっているようです。

しかし、いずれも湿地とその周辺の草地として良好な環境に再生されつつあります。



P地点北側・根の山除去後3年目（2022年10月8日）



P地点南側・作業後3年目（2021年10月2日）



P地点南側・作業後4年目（2022年10月8日）